

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）水生植物調査

くびきしょうぐん

頸城湖沼群サイト

—新潟県上越市—

頸城湖沼群は、7つの湖沼が連なる中頸城地方の湖沼群であり、このうち4湖沼（長峰池、坂田池、鵜ノ池、天ヶ池）をモニタリングの対象として選定しています。各湖沼は過去の古砂丘の起伏に起因し、様々な湖岸形状が見られるため、多様な環境が形成されています。様々な水生植物が確認されており、希少な種も数多く報告されています。



長峰池南西岸からの景観。
ハスやヒシ類、ガガブタが水面に広がっています。



天ヶ池での植物相調査。
岸からアンカー型採集器を用いて、水生植物を採集する様子。

2021年度の調査結果概要

頸城湖沼群サイトでは、2015年以来2回目の調査を2021年8月30～31日に行いました。モニタリング対象の4湖沼（長峰池、坂田池、鵜ノ池、天ヶ池）から、約68種の水生植物が確認されました。クロモやオオトリゲモを中心とする沈水植物の大群落が見られ、アサザ、ガガブタ、ハスといった浮葉、抽水植物が湖面を覆う様子も見られました。また、環境省や新潟県のレッドリスト掲載種であるササエビモ、ツツイトモ、ヒメミクリ、ミズコウ、さらに車軸藻類の多くの種が確認されました。湖沼群全体で見ると前回調査と同様に豊かな多様性を保っていることが確認されましたが、外来種の園芸スイレンが前回調査に比べて更に分布を拡大している様子が複数の湖沼で見られました。園芸スイレンは繁殖能力が高く、在来種の生育分布範囲への今後の拡大が懸念されます。鵜ノ池では、人為的に掘り返しが行われた場所において埋土種子から発芽したと思われる、希少な種を含む様々な水生・湿生植物が群落を形成している様子が観察されました。

【調査者・調査協力者】

志賀 隆・加藤 将・鈴井朋弘・内藤芳香・李 裕梨・大場拓郎・
上村智稀（新潟大学）、山ノ内崇志（福島大学）



浮葉植物のガガブタ。長峰池と天ヶ池で多く見られました。



水生シダのミズコウ（環境省レッドリスト準絶滅危惧、新潟県レッドリスト絶滅危惧I類）。人工的に掘り返された場所を中心に群落が確認されました。



車軸藻類のホシツリモ
（環境省レッドリスト絶滅危惧I類）。



外来種の園芸スイレン。長峰池では群落の拡大が確認されました。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 水生植物調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeAquaticPlants_manual_ver2.pdf

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）水生植物調査

しんじこ 穴道湖サイト

ー 島根県松江市、出雲市 ー

穴道湖は、一級河川斐伊川の下流部に位置する面積80.92km²、最大水深6.4m、平均水深4.2mの汽水の湖です。中海を通して日本海につながり、海水の10分の1程度の塩分濃度となっています。穴道湖では、水生植物の分布域が2009年頃から突発的に拡大し、植物プランクトンが優占する湖沼から水生植物が優占する湖沼へとレ짐シフト（生態系の急激な変化）が起こった可能性が指摘されており、モニタリングしていく価値が高い湖沼であると考えられています。



穴道湖の景観。西岸より。



船上からフックを用いて採集したオオササエビモ。

2021年度の調査結果概要

穴道湖では第1回調査から5年目となる2020年に第2回目の調査を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響で調査を1年延期して、2021年9月14～15日に調査を行いました。調査地点と調査方法は2015年の第1回調査にならい、初日に船による定点調査を、2日目に西岸を中心とした湖岸と流入河川の踏査調査を行いました。特に注目に値するのは2015年には定点調査で切れ藻としてのみ確認されたリュウノヒゲモ（環境省レッドリスト2020準絶滅危惧）が、今回、湖南岸東部で大群落を形成していたことです。2021年の穴道湖の水生植物の優占種は、2015年に優占していたオオササエビモとツツイトモ（絶滅危惧Ⅱ類）の2種にリュウノヒゲモを加えた3種で構成されていました。2015年に確認されその分布拡大が懸念された外来種のアマゾンチカガミは、今回確認されませんでしたが、かわってナガエツルノゲイトウ（特定外来生物）が西岸の一部で群生していました。穴道湖西岸と周辺水域（五右衛門川付近）の踏査調査でそれぞれ確認されていたシャジクモとミズアオイは、今回の調査では確認されませんでした。

【調査者・調査協力者】

國井秀伸・川井田 俊（島根大学）、辻井要介（みなもかん）、上野綾子・金子誠也（日本国際湿地保全連合）



2015年から優占しているオオササエビモの水中の様子。



今回初めて優占種となったリュウノヒゲモ（準絶滅危惧）。



穴道湖西岸で確認された特定外来生物のナガエツルノゲイトウ。



穴道湖西岸周辺域の踏査調査で確認されたミズオオバコ（絶滅危惧Ⅱ類）。この水路ではアイノコヒルムシロ等、その他にも複数の沈水植物が確認された。

